

議 事 録

会議等の名称	第2回 東御市脱炭素化事業推進協議会 産業部門分科会	開催日時	令和5年11月27日（月） 午後4時30分～午後5時30分
		場 所	本庁舎2階 第三委員会室
主催者(事務局)	市民生活部 生活環境課	司会者	中村 昌彦（生活環境課長）
出席者(敬称略)	別紙「出席者名簿」のとおり		
欠席者(敬称略)	別紙「出席者名簿」のとおり		
議 題	(議題) 意見交換 ・重点対策加速化事業について ・バイオマス（剪定枝）等について ・ソーラーシェアリングについて ・太陽光発電システムと余剰電力について	(配布資料)	なし
決定事項	なし		
確認・検討事項	<ul style="list-style-type: none"> ・潜在エネルギー源を有効活用する際に、どのようにイニシアティブを持って結び付けていくか。 ・剪定枝等、潜在バイオマス燃料の賦存量の調査と現実的な利用過程の検討。 ・各事業所の余剰電力や不足電力をどう結び付けていくか。（地域電力会社） 		
次回への検討事項			
次回開催	(日時)	未定	(場所) 未定

討議内容及び経過	(発言者名)	
1. 開会	中村課長	(開会)
2. あいさつ	分科会長	(あいさつ)
3. 意見交換	分科会長	・産業部門分科会なのでバイオマスをどうするか、ソーラーシェアリング
		についても考えていく必要がある。
		・EV自動車、観光、ワイナリー、含めて議論したい。
	中村課長	重点対策加速化事業における太陽光発補助金と市単独補助金の説明。
		(説明内容は以下省略)
		・脱炭素先行地域だけでなく他の補助事業等も踏まえ、どこに更なる力を
		入れて行けば東御市の脱炭素化が進むか伺いたい。
	分科会長	・バイオマスの材料はまずぶどうの剪定枝が中心になるが、足りるのか。
		・視察したバイオマス植物を取り込んでいくのか。
		・ワイナリーの脱炭素についてはどんな取組みを考えているか。
	中村課長	・一番は建物の屋根に太陽光パネルを乗せること。
		野立ては景観的に合わないと思う。
	委員	・ワイナリーでは剪定枝が大量にでる中で、出来るだけ燃やさない為にチップ
		にして畑に入れたりしている。燃やす分もあるので無料でも引き取って欲しい。
	中村課長	材料はあったとして、誰が何をやるかをはっきり出来れば話が進むのでは。
	分科会長	・運搬も必要だがCO2は減るのか。
		・畑の一部を戻しているのであれば、その方が環境に良いのかもしれない。
		・燃やしてしまうなら重油ボイラーからバイオマスボイラーにすることで
		CO2は減るだろう。
		・今、ワイナリーは増えているのか。
	委員	・耕作面積は増えている。
		・近場で剪定枝を保管処理できるのであればよいと思う。
	分科会長	・ソーラーシェアリングはどうか。高温障害対策に使っている地域もある
		ようだ。
	小林課長	・東御市内に限らず、上小地域でもソーラーシェアリングにより収穫量が
		落ちている。大学から有機膜発電を実証する場所を探していると話が
		来ている。
		・植物の成長に必要な紫外線を透過する性能があるので、実証段階だが
		可能性がある。
	分科会長	・他地域で見たときは日射量が十分ある印象だった。
	小林課長	・ノウハウがないまま設備業者任せで設置したので、設置方法など改善の
		余地はあるかと思う。
	分科会長	・張りすぎると暗くなるしやはりそこは工夫が必要。

討議内容及び経過	(発言者名)	
	小林課長	・剪定枝だが、ぶどうに限らずりんご農家やくるみ農家など幅広く考えて欲しい。
	中村課長	・栃木の視察先は廃棄物免許の許可も取得していて、産廃木材など事業者が処理に来る処理施設であった。自前のエアランス栽培もそこで行っているので成り立つ事業だと思う。
	小林課長	・自然由来の剪定枝のみだった場合、灰を一般廃棄物として処理できるのであれば良いのだが。それであれば畑にまくこともできる。水田からメタンガスが出ていて温室効果が非常に高い。水田の中干しによる軽減など、費用をかけず耕作の方法で効果ができれば非常に良い。
	分科会長	・水田から多く出るようで、軽減させる方法があると聞いたことがある。
	副市長	・事業所の重点対策加速化事業の話をしたい。
	中村課長	・来年度、民間施設の太陽光システムの補助金も対象にする。どんな補助があれば先に進むのか等々意見をお伺いしたい。
	委員	・全量売電しているが、FITが終了するので蓄電池を設置しようか検討している。ただ、太陽光で発電した量では到底賄いきれないのでどうしようか悩んでいる。
	委員	・太陽光パネルを乗せているが、売電できない契約の為に過発電になり困っている。だが蓄電池はまだ高い。
	中村課長	・地域電力会社の設立を控え、PPAと電力の小売りをしようと検討している。いずれは余った電気を地域電力会社で買い取り市に販売することを考えている。
	委員	・契約で全量自家消費の為、土日の余る電力の使い道を検討していた。
	中村課長	・導入次点では様々な契約がある。
	小林課長	・電気自動車を補助してそこに受電してもらうのはどうか。
	委員	・電気自動車の走行距離や充電ステーションの観点から導入は躊躇する。
	中村課長	・軽自動車のラインナップが増えた影響か、電気自動車の補助金申請は激増した。
4. その他		(なし)
5. 閉会	中村課長	(閉会)